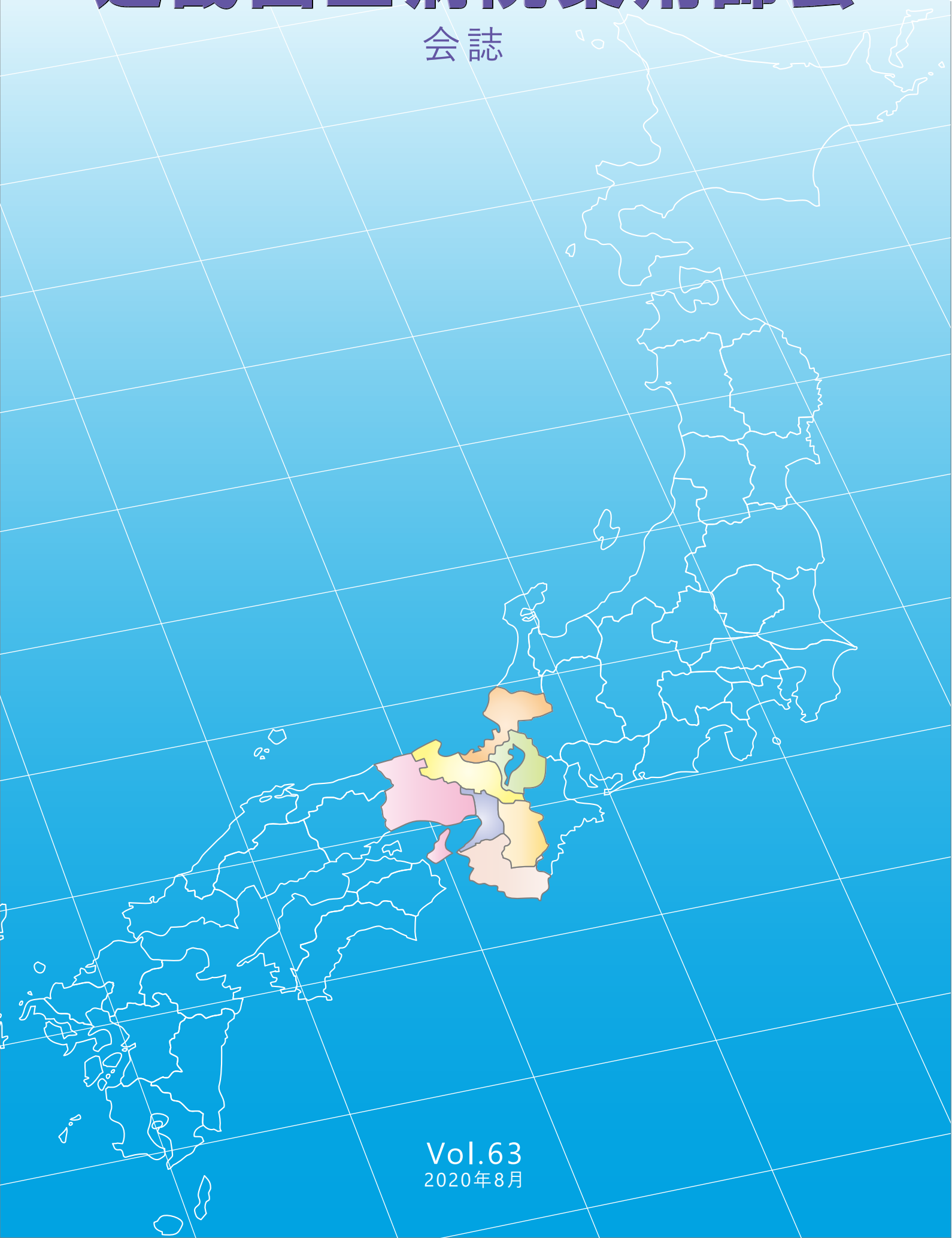


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.63
2020年8月

目 次

提言.....	2
	兵庫中央病院 本田 富得
薬剤部紹介.....	3
	南和歌山医療センター 阿部 正樹
学会報告（紙上開催）参加報告.....	4
	京都医療センター 野田 拓誠 京都医療センター 松本 真理子
趣味のページ.....	7
	近畿中央呼吸器センター 関口 知弘
編集後記.....	8

提 言

兵庫中央病院 本田 富得

昨年末に中国の武漢市で発生した新型コロナウイルスは、今や世界を巻き込み猛威を振るっている。新型コロナウイルスの感染者が全国でふたたび増加するなか、治療薬とワクチンの開発が進められている。理化学研究所(理研)は、スーパーコンピュータ「富岳」を活用し、新型コロナウイルス感染症の治療薬の候補となりうる数十種類の物質を発見したと発表した。この取り組みでは、富岳を用いた分子シミュレーション(分子動力学計算)により、2,128種類の既存医薬品のなかから、新型コロナウイルスの標的タンパク質と高い親和性を示す治療薬候補を探索し、有望な数十種類の薬を先代のスパコン「京」で1年以上かかる計算をわずか10日間で特定したそうである。今回の試みが成功すれば、これからの新薬開発のスピードが速くなり、副作用を予測する解析も可能になるのではと期待される。

我々の業務においても、電子カルテや散薬調剤ロボット、注射自動払い出しシステムなどオートメーション化が進み、今後においては人工知能(AI)の登場で薬剤師業務への参入が考えられる。コンピュータの参入により、将来薬剤師の存続意義が危ぶまれるのではないかと考えるところである。オックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン准教授が発表した「雇用の未来」という論文では、今後人工知能を搭載したコンピュータやロボットに奪われる可能性のある職業を、消滅パーセンテージとともに順位づけしている。アメリカの薬剤師の業務が前提であり、日本の薬剤師すべてが当てはまらないが、論文の中で薬剤師は「今後10~20年で仕事を奪われる可能性は1.2%」と、将来も残る可能性のある職種に分類されている。AIで行われる作業として考えられるのが、「大量かつ正確なデータ処理」や「データに基づいた単純作業」、「統計処理」などが考えられ、薬剤師の主な業務内容では、「DI業務」や「薬歴管理」などが該当すると思われる。また、「人とのコミュニケーション」、「共感・協調のスキル」や「創造的な作業」など、服薬指導やチーム医療のような「対人業務」については、AIでは苦手分野の様である。

「コミュニケーション能力」は、服薬指導においては対患者、チーム医療では対スタッフ、薬薬連携では対薬局薬剤師と、対人業務の基軸となるスキルである。コミュニケーションスキルを上げることは容易ではないが、「正しく聞き出す傾聴力」、「潜在的なニーズを満たすための会話力」、「相手のニーズを的確にとらえた提案力」が大切であると考えられ、今後も専門性だけでなく、更に多職種との連携も必要とされることから、より高度なコミュニケーション能力が求められるようになると考えられる。

薬剤部紹介



独立行政法人 国立病院機構

南和歌山医療センター

National Hospital Organization Minami Wakayama Medical Center

【病院概要】

南和歌山医療センターは和歌山県の中南部、田辺市に位置する316床の中規模病院です。田辺市は海や山など豊かな自然と、「世界遺産熊野古道」に代表される歴史と伝統の町で、病院は観光地としても有名な南紀白浜まで車で15分ほどの場所にあります。当センターは超急性期から終末期、在宅医療まで患者さんの多様な状態・状況に応じた医療サービスを提供できる病院です。また、地震等の災害時の医療救護活動において、中心的な役割を担う災害拠点病院でもあります。その他、がん診療連携拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、認知症疾患医療センターなどの専門医療にも携わっており、多彩な機能を有しています。



【薬剤部概要】

薬剤部は部長、副部長、主任薬剤師、薬剤師、薬剤助手で構成されています。

「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進」に則り、プロトコルに基づく薬物治療管理も積極的に実践しています。今年度はポリファーマシーの解消につながる取り組みにも着手し、かかりつけ薬局への情報提供にも力を入れられるように考えています。チーム医療では一般的なICT、NSTなどは勿論のこと、当センターの特徴である在宅医療や災害支援医療チームにも関わっています。

近年、圏域薬剤師会との連携強化を目的に研修会の開催など、顔の見える関係性作りから始め、お互いの知識の向上を目指した取り組みも行っています。

入院準備センターが新たに設立され、薬剤部も業務の一端を担っています。このように患者さんに対して入院前から退院後まで薬剤管理に協力できる体制を作り、地域医療に貢献しています。

(文責：阿部 正樹)

学会報告（紙上開催）参加報告 ①

「日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2020」参加報告

京都医療センター 野田 拓誠

2020 年 3 月に日本臨床腫瘍薬学会学術集会 2020(@福岡)で発表予定でしたが新型コロナウイルス感染拡大に伴い会場開催が中止となり、紙上開催の位置付けとなりました。その内容を薬剤師会会員の皆様に共有させていただけたらと思います、会誌に掲載させていただきました。

「院内免疫療法連携マニュアル作成前後での検査実施率の比較調査」

免疫チェックポイント阻害薬(以下 ICI)は様々ながん種で有効性が示されており適応拡大が進んでいます。免疫関連有害事象(以下 irAEs)対策には予防・予測・発見・治療・モニタリングが重要と報告されており、当院では ICI の適正使用化を図るため 2018 年 6 月 20 日より免疫療法連携マニュアルを作成し運用開始しました。免疫療法連携マニュアルでは副作用発現の予測・発見を目的として ICI 導入時(47 項目)と毎月(26 項目)実施する検査項目を設けています。今回免疫療法連携マニュアルの運用が検査項目実施率向上に影響しているかを調査しました。

2018 年 1 月 1 日～2018 年 12 月 31 日の期間に Nivolumab を開始した患者 59 例(マニュアル作成前 34 例、作成後 25 例)を患者対象とし、マニュアル作成前後での検査項目の実施率の比較を行いました。電子カルテを用いた後方的な調査を行い、検査項目の実施状況(Nivolumab 開始前、開始 1 ヶ月後、開始 2 ヶ月後)を調査しました。

マニュアル作成前後で比較し、Nivolumab 開始前、開始 1 ヶ月後、開始 2 ヶ月後において実施した検査項目数に有意な差は認めませんでした。X 線検査は呼吸器科が他診療科と比べ検査実施率が有意に高くまた、尿中ケトン体は泌尿器科で検査実施率が有意に高い結果でした。

今回マニュアル作成のみでは検査実施率を上げることは出来ませんでした。また、診療科によって実施出来ている検査項目にばらつきがありました。その原因として各診療科で検査項目をセット化していることや X 線検査といった採血以外に別途入力が必要な項目の検査漏れが見受けられました。今後、マニュアルの再周知を行うことや入力漏れがある項目について薬剤師がチェックする体制を作る必要があると考えられました。また、検査実

施率の向上が irAEs の早期発見に影響しているかについても今後検討が必要と考えられました。

皆様の施設で irAEs に対する取り組みなどありましたらぜひともご教授下さい。

観察項目	検査項目	導入時	毎月初回
肺障害	KL6、SPD	●	
	胸部Xp	●	●
甲状腺機能障害	TSH	●	●
	FT3、FT4、Tg-Ab、TPO-Ab	●	
下垂体機能障害	ACTH、コルチゾール	●	
糖尿病	HbA1c	●	
	尿定性 (尿ケトン体)、血糖	●	●
	インスリン、抗GAD抗体	●	
神経障害・筋障害	CK	●	●
肝障害	AST、ALT、γ-GTP、LDH、T-Bil	●	●
腎障害	尿定性、クレアチニン、尿素窒素	●	●
	尿沈渣	●	
電解質	Na、K、Cl、Ca	●	●
その他	血液一般 (分画)、TP、Alb、CRP	●	●
免疫系	抗核抗体、IgG	●	
循環器系	心電図、トロポニンI、NT-proBNP	●	
感染症	HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体	●	

免疫チェックポイント阻害薬投与前検査のセット項目

学会報告（紙上開催）参加報告 ②

「第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会」に参加して

京都医療センター 松本 真理子

2020 年 2 月 27 日から 2 月 28 日の 2 日間にわたり開催予定であった第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会にて一般演題のポスター発表として参加しました。

今回のポスター発表は、嚥下障害に着目したテーマで作成しました。嚥下障害への対策は、栄養障害の改善のみならず、服薬状況にも影響を与える重要な課題であり、当院では 2018 年 8 月より N S T の活動の一環として嚥下機能評価を行っています。嚥下機能評価を実施し、その機能に合わせた食形態、さらには栄養投与ルートを検討したり、リハビリテーションにより再度経口摂取能力を取り戻す補助をしたりしています。その中で薬剤師は、過去の調査研究の報告などをもとに、薬剤性嚥下障害を引き起こす可能性のある薬剤を投与されている場合は、嚥下障害の発症に留意し早期発見に努め、嚥下障害を発症している場合は処方変更の提案などの対応を行い、誤嚥予防に貢献しています。また、嚥下障害の結果、食事の摂取だけでなく処方薬の服用困難をきたし薬効に影響を及ぼす可能性を考慮し、剤形や薬剤投与ルートの再検討なども行っています。

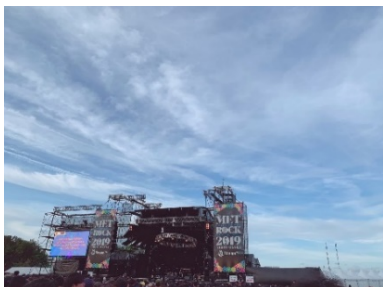
今回の発表を行うにあたって参考としました文献の中には、複数の調剤薬局が共同し、地域の保険薬局に来局する高齢者にはどの程度の嚥下障害があるのか、また嚥下障害を発症しやすい高齢者の特徴にはどのようなものがあるのかを検討したものも認められ、自分で食事を摂るという行為の重要性、誤嚥性肺炎の回避など、私と同じ意識を持って日々業務に取り組まれている薬剤師の先生方の存在を励みに思うと同時に、今後はそういった地域の薬剤師の先生方と共同して急性期から地域へ繋ぐための取り組みができたかと、今後の目標も見えてきたように思います。

今回は新型コロナウイルス感染の拡大を鑑み、開催が中止された為、例年のような発表や討論などの機会は残念ながらいただけませんでしたが、他施設や他職種の方々との意見交換の場はやはり貴重だと思います。今後そういった機会が戻ることを願いつつ、その時に活発な討論ができますよう、日々研鑽を積み、業務に励みたいと考えます。

趣味のページ

近畿中央呼吸器センター 関口知弘

神戸医療センターの永井先生からバトンを受け継ぎました、近畿中央呼吸器センターの関口知弘と申します。永井先生とは、異動される前に今の病院で共に働かせていただきました。薬剤部のデスクが後ろ同士だったこともあり、優しくいろいろと教えていただき大変お世話になりました。薬剤部の癒し系愛されキャラだったことが印象に残っております。趣味のページを書くにあたり、自分の趣味を振り返るとフットサル、テニス、スノーボード、釣り、映画鑑賞、ロックフェスなどといろいろとあるため何を題材にするか悩みました。その中でも社会人になってから一番はまったロックフェスについて書かせていただきます。



ロックフェスとの出会いは同じ病院の他部署の同期から誘われたことがきっかけでした。それまではロックフェスがどんなものであるかも知らないまま、ただ面白そうだと思いついて行きました。一緒に参加したメンバーはかなりの常連だったらしく、はじまって早々にステージの前の方に連れていかれ、曲が始まった瞬間、周りにいた人たちにも

みくちゃんにされたのを覚えています。もともと音楽のジャンルとしてロックが一番好きではありましたが、これをきっかけにロックフェスにはまり、毎年行くようになりました。

ロックフェスの魅力といえば非日常的な空間を好きな音楽を生で聞きながら楽しめる点ではないでしょうか。

1日のうちで複数のアーティストが集まり、複数の会場で行われるので新たな曲との出会いがあるのも魅力だと思っています。



今年は大阪府外のフェスにも参加したいと考えていましたが、新型コロナの影響でさまざまなフェスが開催中止を余儀なくされています。一刻も早く終息しこれまでの日常がかえってくることを切に願っております。

ロックフェスに興味のある方はぜひ一緒に参加しませんか～!!

ここまでお付き合いいただきありがとうございました。

次回は同期である京都医療センターの東先生をお願いしております。よろしくお願いします。

編集後記

♪ 夏も本番となり気温もグッと上がっていますが、体調を崩されていませんか。感染予防のためマスクも常時着用されていると思います。この時期は熱中症にも注意が必要なので周りに人がいない際はマスクも外して一息いれてくださいね。(≡▽≡)

♪ 今号ではリモート理事会という新たな取り組みの報告をしていただきました。皆さんの御施設でもリモート会議、面談も増えてきているのではないのでしょうか。何事も新しいことを知るのは楽しいですね。

♪ 外出を控えることが多い中、断捨離もやりきり捨てるものがなくなり、最近はテレビドラマでは薬剤師を題材にしたアンサンングシンデレラ、MRの私の家政婦ナギサさんを見てゆったりしています。皆さまはどういったおうち時間をお過ごしでしょうか。

♪ 最後にお忙しい中、今回ご寄稿いただきました先生方、ありがとうございました。なかなか集合形式の薬剤師会の開催が難しい中、広報委員会として会誌を通して皆様と情報共有をしていきたいと考えております。どうぞご熟読ください。

(K.M.)

近畿国立病院薬剤師会会誌

第六十三号 令和二年八月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

神戸市須磨区西落合3-1-1

(独立行政法人国立病院機構神戸医療センター薬剤部内)

発行人 会長 河合 実(神戸医療)

編集	広報担当理事	別府 博仁(京都医療)
	広報委員	水津 智樹(大阪南医療)
		村津 圭治(京都医療)
		常倍 翔太(兵庫中央)
		池上 洋平(京都医療)
		野田 拓誠(京都医療)